



## 2024年6月期 第3四半期決算短信(日本基準)(非連結)

2024年5月8日

上場会社名 ウェルネット株式会社  
コード番号 2428 URL <https://www.wellnet.co.jp>

上場取引所 東 札

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 宮澤 一洋  
問合せ先責任者 (役職名) 執行役員管理部長 (氏名) 五十嵐 達哉

TEL 011-350-7770

四半期報告書提出予定日 2024年5月13日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2024年6月期第3四半期の業績(2023年7月1日～2024年3月31日)

#### (1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年6月期第3四半期	7,560	5.4	922	17.5	923	17.6	643	20.6
2023年6月期第3四半期	7,169	6.5	784	36.2	785	34.1	533	27.2

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年6月期第3四半期	34.09	33.85
2023年6月期第3四半期	28.29	28.03

#### (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2024年6月期第3四半期	24,930	8,180	32.4	427.68
2023年6月期	24,892	7,826	31.1	410.38

(参考)自己資本 2024年6月期第3四半期 8,083百万円 2023年6月期 7,745百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年6月期		0.00		16.84	16.84
2024年6月期		0.00			
2024年6月期(予想)				21.00	21.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2024年6月期の業績予想(2023年7月1日～2024年6月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	10,160	7.8	1,150	22.9	790	24.3	41.86

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

## 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2024年6月期3Q	19,400,000 株	2023年6月期	19,400,000 株
期末自己株式数	2024年6月期3Q	498,316 株	2023年6月期	525,475 株
期中平均株式数(四半期累計)	2024年6月期3Q	18,888,253 株	2023年6月期3Q	18,863,599 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記の業績予想及び配当予想は、本資料の発表日現在において当社が入手している情報に基づき合理的であると判断する一定の前提より作成したものであり、実際の業績及び配当は今後の様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	4
2. 四半期財務諸表及び主な注記 .....	5
(1) 四半期貸借対照表 .....	5
(2) 四半期損益計算書 .....	6
第3四半期累計期間 .....	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項 .....	7
(継続企業の前提に関する注記) .....	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	7
(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用) .....	7
(会計方針の変更) .....	7
(表示方法の変更) .....	7
(会計上の見積りの変更) .....	7
(重要な後発事象) .....	7

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

#### ① 経営成績に関する分析

当第3四半期累計期間(2023年7月1日から2024年3月31日まで)におけるわが国経済は、不安定な国際情勢や不信心が高まる国内政治情勢のなか、日銀の金融緩和策の変更、円安見通しへの不安、資源価格などにより不透明な状況が続いております。

このような状況のなか、当社の主要事業ドメイン市場においては様々な業種業態において、DX(デジタルトランスフォーメーション)が積極推進されており、ITが果たすべき社会的役割も増してきております。

当社も「ペーパーレス化」「キャッシュレス化」をキーワードに、重点施策「電子決済時代への対応」「交通業界向けIT化プロジェクト/MaaS事業」などを推進、その文脈上にある生活密着フィンテック・プラットフォームを見据えた施策を行っており、会員管理のDX化ツール「ekaiin.com(e会員ドットコム)」の利用拡大や電子請求書発行及び保存を行う新サービス「しまえーる」の提供など、「決済+αプラットフォーム拡大」に注力しております。

これらサービスのほか開発・プラットフォーム拡大をしております「交通事業者向けオールインワンクラウドサービス」につきましては、スルッとKANSAIのQRコードを利用するデジタル乗車券サービスの名称が「スルッとQRtto(クルット)」に決定、今年6月にサービス開始予定が発表されるなど、いよいよ本格的な展開時期を迎えます。一方、もう一つの大規模開発「電子マネー」につきましても、各企業が自社マネーとして利用できるシステム改修を行う等引き続き次世代を見越したサービス展開の準備を行っております。今後プロジェクトが大規模化することなどが予想されるため、札幌、東京、大阪の3拠点体制を確立、より地域に密着した本格的な営業活動への準備を整えております。

これらの結果、当第3四半期累計期間の経営成績は、売上高7,560百万円(前年同期比5.4%増)、営業利益922百万円(前年同期比17.5%増)、経常利益923百万円(前年同期比17.6%増)、四半期純利益643百万円(前年同期比20.6%増)となりました。第3四半期に入って営業活動が堅調に推移したこと及び付加価値の高い商材の販売が増加したことなどから、売上高、営業利益、経常利益及び四半期純利益共に前年同期と比較して増加しております。

#### ② 当社を取り巻く環境変化と対応戦略

当社が事業ドメインとするオンライン決済市場については今後も一定の伸長を見込んでおりますが、電子決済拡大による決済自体のコモディティ化が進むとみており、決済+αの具体的な形として、事業者側のDX化を支援するクラウドサービスの拡充に尽力しております。

#### A. ペーパーレス化・キャッシュレス化における“スマホ決済”「支払秘書」・電子マネー対応

決済を銀行口座と連携するスマホで行う「支払秘書」は、新たに2024年2月のみずほ銀行との接続で、主要銀行との接続を完了し利便性が増しております。また、電力会社各社に加え、公金支払いでも提携銀行が多い地域を中心に「支払秘書」で支払える案件が増加しているほか、当社が提供するクラウドサービスである下記B項記載の「バスもり!」、「アルタイルトリプルスター」及び「ekaiin.com」とのシームレスな連携を中心とした展開を行うとともに、電子マネーを自社のサービスに組み込む流れが今後出てくると予測し、組み込み型電子マネーの提供準備を進めております。今後は交通事業者向けのクラウドサービスと連携させたサービスへ進化させるべく、営業活動を行ってまいります。

#### B. 交通事業者向けIT化プロジェクトを積極推進

2016年8月に開始したスマホ電子チケットアプリ「バスもり!」は、1回券、回数券、定期券、フリーパス、企画券など電子化券種を拡大し、バス・鉄道の取り扱い路線は645となりました。コロナ禍を経て、非対面で購入できるスマホ定期やスマホ回数券の利用は拡大しております。また、2017年から開発してきたオールインワンの交通事業者向けクラウドサービス「アルタイルトリプルスター」は、乗物やイベントの在庫・時刻表管理、チケット予約・購入・発券・認証、そして売上情報の集計と精算処理に至るまでの一連の業務の自動化を実現できるトータルクラウドサービスで、全国各地のMaaS基盤および、交通系各社様のDX化支援の有効ツールとしてその利用が拡大しております。2024年3月には、JAL MaaSにおいて北海道内の交通サービス13社と連携し、JALグループ便が就航する北海道内全8空港(離島除く)から主要都市部への経路検索から電子チケットまで、その利用が拡大しております。複数事業者が共同利用するMaaSにおいて、多大な労力を要する精算業務に関する十分な知識と経験を当社が持っていることは大きなアドバンテージです。

#### C. ウェルネットの“主力決済商材”「マルチペイメントサービス」「送金サービス」の現況

非対面決済「マルチペイメントサービス・送金サービス」は引き続き伸長するポテンシャルがあると見込ん

であります。当社は、30年以上にわたり様々な事業者に決済サービスを採用いただいておりますが、今後も事業者・コンシューマ双方の利便性向上に資する決済機能拡充を目指します。当社は決済+αのサービス開発を推進してまいります。その際決済基盤を持っている当社は大きなアドバンテージを持っていると考えております。

2022年9月には当社が新たに開発したスマホバーコード決済「s t a n p」がファミリーマートの全国の店舗で採用され、利用者はスマートフォンに表示されるバーコードを店頭レジで直接読み取るのみでリアルタイム支払いができるようになり利便性が向上、利用者が着実に増加しております。今後、ファミリーマート以外のコンビニでの採用に向け、積極的に営業活動を進めてまいります。

#### D. 地域貢献活動

当社のビジネスである「IT活用・DX化」そのものが、環境に優しいビジネスモデルへの転換を支援するものであり、ビジネス拡充自体が地球環境保全に資するものと認識しております。

地域社会への貢献として、北海道の工業高等専門学校に通う経済面で苦勞する学生向けに設立した“ウェルネット奨学金”により多くの学生を支援しております。2023年度までの累計で902名に対して約98百万円の奨学金を支給しており、ここ4年間は経済的困窮による退学者0に直接的に貢献しております。本活動は今後も継続してまいります。

さらに、地元のスポーツ振興に寄与することを目的とし、北海道オール・オリンピックズが推進する「スクラム札幌」構想へ参画、オリンピック出場が期待されるスピードスケートの山田将矢選手は2023年4月から当社社員として活動しております。2023年11月に北海道帯広市明治十勝オーバルで開催された「ISU World Cup Speed Skating 2023/2024 第1戦」の「男子1000m、1500m」において金メダルを獲得、日本人初の快挙を達成いたしました。また、2023年12月ノルウェー・スタバングルで開催された「ISU World Cup Speed Skating 2023/2024 第3戦」の「男子1000m、1500m」において銅メダルを獲得した弟の山田和哉選手も2024年4月から当社の社員となり、兄弟揃ってのオリンピック出場及びメダル獲得に向けた活動を支援しております。今後は「ekaiin.com」をスポーツ選手の支援にも積極活用し、当社のITサービスによるスポーツ振興を促進してまいります。

また、2021年に竣工した札幌本社新社屋は、働く環境や従業員の健康に配慮したオフィス設計により、2022年9月に「WELL認証」最高ランク「プラチナ」を取得いたしました。「WELL認証」は2014年に米国で始まったビルやオフィスなどの空間を人間の健康の視点で評価・認証する先進的な取り組みであります。さらに、札幌本社は2023年8月に創意と工夫を凝らしたオフィスを表彰する制度である「第36回日経ニューオフィス賞」を受賞いたしました。これらの取り組みは、人的資本である従業員への投資であり、ひいては生産性向上、働き方改革など企業価値向上につながると考えております。

#### E. 収益予想と株主還元

収益予想につきましては、2023年8月14日付の「2023年6月期 決算短信〔日本基準〕（非連結）」に記載の「2024年6月期の業績予想」で公表いたしました収益予想から変更ありません。なお、配当性向については50%以上とする予定です。

#### (2) 財政状態に関する説明

##### 資産、負債、及び純資産の状況

当第3四半期会計期間末における総資産は24,930百万円となりました。流動資産は19,467百万円であり、主な内訳は現金及び預金14,408百万円であります。現金及び預金には回収代行業務に係る収納代行預り金が9,842百万円含まれておりますが、これは翌月の所定期日には事業者に送金されるものであり、一時的に当社が保管するものであります。固定資産は5,462百万円であり、内訳は有形固定資産3,802百万円、無形固定資産350百万円、投資その他の資産1,309百万円であります。

一方、負債合計は16,749百万円となりました。主な内訳は収納代行預り金9,842百万円であります。

純資産合計は8,180百万円となりました。主な内訳は株主資本8,079百万円であります。

(参考) 現金及び預金の純額（回収代行業務に関する預り金を相殺した、正味の現預金残高）

	前事業年度 (2023年6月30日)	当第3四半会計期間末 (2024年3月31日)
(A) 現金及び預金 (百万円)	14,070	14,408
(B) 収納代行預り金 (百万円)	10,441	9,842
(A)-(B) 現金及び預金純額 (百万円)	3,629	4,565

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

前記「(1) 経営成績に関する説明 ② 当社を取り巻く環境変化と対応戦略 E. 収益予想と株主還元」に記載のとおりであります。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2023年6月30日)	当第3四半期会計期間 (2024年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	14,070,800	14,408,327
売掛金及び契約資産	604,434	755,192
商品	3,532	3,130
仕掛品	1,313	-
貯蔵品	898	693
前払費用	44,513	77,937
預け金	3,449,042	3,484,462
その他	581,691	737,594
流動資産合計	18,756,227	19,467,338
固定資産		
有形固定資産	3,888,345	3,802,539
無形固定資産	444,212	350,596
投資その他の資産	1,803,621	1,309,560
固定資産合計	6,136,180	5,462,697
資産合計	24,892,407	24,930,035
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	440,937	529,882
預り金	3,584,744	3,864,520
1年内返済予定の長期借入金	75,000	125,000
収納代行預り金	10,441,061	9,842,946
未払法人税等	223,285	141,068
賞与引当金	20,697	63,085
ポイント引当金	16	135
その他	319,833	314,047
流動負債合計	15,105,577	14,880,687
固定負債		
長期借入金	1,725,000	1,625,000
株式給付引当金	77,221	81,804
資産除去債務	13,432	15,910
長期未払金	119,007	119,007
その他	25,222	26,630
固定負債合計	1,959,883	1,868,352
負債合計	17,065,461	16,749,040
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	667,782	667,782
資本剰余金	3,509,216	3,509,216
利益剰余金	4,264,341	4,573,524
自己株式	△703,349	△671,118
株主資本合計	7,737,990	8,079,404
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	7,791	4,547
評価・換算差額等合計	7,791	4,547
新株予約権	81,164	97,043
純資産合計	7,826,946	8,180,994
負債純資産合計	24,892,407	24,930,035

(2) 四半期損益計算書  
(第3四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自 2022年7月1日 至 2023年3月31日)	当第3四半期累計期間 (自 2023年7月1日 至 2024年3月31日)
売上高	7,169,480	7,560,101
売上原価	5,745,307	5,992,894
売上総利益	1,424,172	1,567,207
販売費及び一般管理費	639,447	645,007
営業利益	784,725	922,200
営業外収益		
受取利息	546	51
為替差益	1,234	-
受取賃貸料	775	450
助成金収入	2,467	2,351
営業協力金	1,350	1,350
その他	1,844	922
営業外収益合計	8,218	5,125
営業外費用		
支払利息	3,992	2,675
新株予約権発行費	2,570	-
投資事業組合運用損	900	1,197
その他	328	-
営業外費用合計	7,791	3,873
経常利益	785,152	923,451
特別利益		
新株予約権戻入益	831	208
補助金収入	88,399	-
特別利益合計	89,230	208
特別損失		
投資有価証券評価損	63,891	-
特別損失合計	63,891	-
税引前四半期純利益	810,491	923,660
法人税、住民税及び事業税	286,447	286,436
法人税等調整額	△9,676	△6,608
法人税等合計	276,770	279,827
四半期純利益	533,721	643,833



(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

該当事項はありません。

(表示方法の変更)

(損益計算書)

前第3四半期累計期間において、「営業外収益」の「その他」に含めておりました「営業協力金」は、営業外費用総額の100分の20を超えたため、第3四半期累計期間より独立掲記しております。この表示方法の変更を反映させるため、前第3四半期累計期の財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前第3四半期累計期の損益計算書において、「営業外費用」の「その他」3,194千円は、「営業協力金」1,350千円及び「その他」1,844千円として組み替えております。

(会計上の見積りの変更)

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。